



## 加速化する パラダイム・シフトと柔構造

**安田 育生**

ピナクル  
取締役会長兼社長兼CEO

最近、パラダイム・シフトがさまざまな領域で急速に進行しているように実感することが多くなってきました。

ビジネス環境で言うならば、クラウド・コンピューティング、スマートグリッド、スカイプ、電気自動車、SNS、代替エネルギー、電子書籍などです。例えば、アマゾン・ドット・コム の登場により書店の数が減少したかと思えば、そのアマゾンも、電子書籍の登場により新たな岐路に立たされてしまったというようなことです。SNSも然りです。TwitterやFacebookが、中東での革命騒ぎのきっかけをつくったことは皆さんもご存じのとおりです。先の福島原発事故の際にもテレビでの政府公表だけでは不安だったので、私はTwitterから専門家の意見を一番頼りにして情報を集めました。コントロールされたマスコミ情報から、アンコントロールラブルではあるがロングテール情報を読み手が取捨選択する時代に入ったことを身をもって体験しました。スカイプの登場も衝撃的です。電話通話料が無料化していく中、もはや通信事業者は通話料依存からデータ通信料収入の方に軸足を置きつつあると聞いています。まさに「昨日の勝者は明日の敗者」になりかねないということでもあります。

政治や国家レベルでもパラダイム・シフトが起こっています。例えば中国の台頭、アラブ諸国の革命、黒人初の大統領の登場、自民党から民主党への政権移行などです。こうした新しい事象が生まれることは古いシステムの衰退を伴い、パワーバランスの変革を現実化させます。こうしたパラダイム・シフトへの対応に遅れを見せているのが日本なのではないでしょうか？

加えて今回の東日本大震災です。戦後最大の危機に直面した日本であるにもかかわらず、政治のリーダーシップには期待できません。日本は過去数々の危機を日本国民や企業の努力と工夫で克服してきました。それは日本が持つ独特の柔構造（フレキシビリティ）が危機を乗り越える原動力となってきたからだと思います。世界経済から取り残されつつある日本から、今こそ再復活を果たすための大団結を期待します。

次回リレートーク：奥谷 禮子（ザ・アール 取締役社長）